

## 平成17年入域観光客統計概況

平成18年1月20日  
沖縄県観光商工部

平成17年入域観光客数 5,500,100人(過去最高)  
・対前年比 +6.7%(+346,900人)

### 1. 空海路別入域状況

空路： 5,390,700人(対前年比 +6.7%)  
海路： 109,400人(同 +6.0%)

### 2. 国内外・主要航路別入域状況

国内： 5,363,600人(対前年比 +6.8%)  
国外： 136,500人(同 +5.4%)

#### 〈国内主要航路別状況〉

東京：2,457,900人(対前年比 +7.0%)  
大阪：1,041,800人(同 +7.7%)  
福岡：680,500人(同 +2.5%)  
名古屋：477,600人(同 +14.7%)

### 3. 概況

平成17年の入域観光客数は、沖縄の自然風土、独自の音楽、芸能文化などに引き続き全国の関心が高まり、沖縄人気が続いていることを背景に、航空路線の増便や機材の大型化による提供座席数の拡大、宿泊施設の新設、官民一体となった誘客キャンペーンの展開などが奏功し、誘客目標の540万人を10万人上回る、550万100人と、過去最高を記録した。

#### 〈主な増加要因〉

- 沖縄の音楽、文化、芸能、食材等への全国的な関心の継続
- 航空路線の増便や機材の大型化による提供座席数の増加
  - ・平成17年の空路提供座席数各社合計 8,167,221席
  - ・前年同期比 +5.3%、+409,968席
- 宿泊施設数の増加
- 官民一体となった誘客キャンペーン
- 台風の影響が少なかったこと
- 修学旅行の増加

### 4. 平成18年目標

入域観光客数 565万人(+2.7%、+149,900人)  
観光客一人当たりの県内消費額 7万7千円(+5.5%、+4千円)  
観光収入 4,351億円(+8.4%、+336億円)

# 入域観光客統計概況

## －平成17年1月分－

沖縄県観光リゾート局

1月の入域観光客数は392,400人。  
・前年同月比は+3.5%(+13,200人)で、同月の過去最高記録となった。

### 1. 国内外別入域状況

国内：388,100人 前年同月比+ 5.6% (+20,600人)  
海外：4,300人 前年同月比△ 63.2% (△7,400人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京	173,300人	前年同月比 + 8.7%	(+13,900人)	構成比	44.2%
阪神	69,300人	前年同月比 + 4.4%	(+2,900人)	構成比	17.7%
福岡	52,600人	前年同月比 △ 0.4%	(△200人)	構成比	13.4%
名古屋	36,500人	前年同月比 +15.9%	(+5,000人)	構成比	9.3%

### 3. 概況と見通し

1月の入域観光客数の概況としては、国内客については、離島観光が好調であったこと、マスコミ等による沖縄の露出拡大などにより、大幅に前年を上回った。特に、主要路線である東京路線と名古屋路線では全体の伸び率を上回る伸長となった。

外国客については、昨年1月であった旧正月が本年は2月となっているため、空海路とも前年を下回った。

今後の見通しとしては、国内客については、プロ野球キャンプなどの報道による沖縄の露出拡大、航空路線の増便（名古屋路線と福岡路線の各1便増）、修学旅行の増加が見込まれること、免税ショッピングを組み込んだ商品販売の本格化が期待されること、中部国際空港の開港等による旅行市場の活性化などにより、好調に推移することが見込まれる。

外国客については、2月は旧正月の長期休暇に合わせたチャーター便の運航等により前年を上回り、3月以降についても、愛知万博開催期間中のノービザを活用した誘客が期待されるほか、IDB総会の開催により前年を上回るものと見込まれる。

担当：観光企画課 久保田  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 1月は、各旅行社が例年より早めに商品造成に取り組み、積極的な販促活動を展開したことにより旅行需要の喚起が図られ、個人型フリープラン商品やメディア商品を中心に好調に推移した。今後も、各旅行社の予約状況は前年を上回っており、入域観光客数は好調に推移するものと予想される。

大阪事務所 (阪神地区)

- 根強い離島人気や台風等による旅行手控えの反動、沖縄の露出頻度が高いことなどにより、入域観光客数は増加となった。
- プロ野球キャンプや卒業旅行などの増加要因が見込まれるほか、中部国際空港の開港や愛知万博の開幕などにより旅行マインドは上向くものと期待される。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 1月は、年末年始の日並びが悪かったことに加え、韓流で勢いのある韓国をはじめ、中国や香港などが好調であったため、一般団体やエスコート型商品が伸び悩み、僅かながら前年を下回った。
- 2月以降の見通しとしては、プロ野球キャンプなどマスコミによる沖縄の露出が他の観光地と比べ特段に高く、沖縄人気が続くこと、新潟中越地震やスマトラ沖地震に伴う津波などから、観光地の選択に安全を重視して沖縄を選ぶ傾向も見られることから、個人型フリープランを中心に好調に推移するものと思われる。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 周遊型ツアーが好調に推移したことや沖縄人気の継続により、入域観光客数の大幅な増加となった。また、北海道や九州、海外を含めて好調であり、他の地域より好景気であることによる観光市場活性化も増加の要因である。
- 2月以降も好調に推移するものと思われるが、セントレア中部国際空港開港による海外との競合、愛地球博の影響が懸念される。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 現在の沖縄需要は、JAL沖縄キャンペーンの効果などにより上昇傾向にあり、プロ野球キャンプによるメディアの露出拡大や各旅行社の販促などにより、当面順調に推移するものと思われる。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 昨年は1月にあたっていた春節 (旧正月) が今年は2月になったこと、スマトラ沖地震に伴う津波による出国マインドが大きく冷え込んだことにより、1月の入域観光客数は減少となった。
- 2月については、春節休暇に合わせたチャーター便6便の運航、月末の3連休、OCVBマスコミ招聘事業による旅行需要の掘り起こしなどにより、増加が見込まれる。

韓国事務所 (韓国地区)

- 昨年は1月であった旧正月の連休が今年は2月になったことや、韓進観光と現代ドリームツアーが2月に実施するチャーターツアーに旅行需要が集中されたことなどにより、1月の沖縄への送客は前年を下回った。

# 入域観光客統計概況

－平成17年2月分－

平成17年3月18日  
沖縄県観光リゾート局

2月の入域観光客数は421,300人。前年同月比は△3.4% (△15,000人)で、同月としては過去2番目の記録となった。  
1月～2月までの入域観光客数は813,700人。前年同期比は△0.2% (△1,800人)となった。

## 1. 国内外別入域状況

国内：413,400人 前年同月比△3.5% (△15,000人)  
海外：7,900人 前年同月比±0.0% (±0人)

## 2. 主要航路別入域状況

東京	183,400人	前年同月比	△6.2%	(△12,200人)	構成比	43.5%
阪神	77,100人	前年同月比	△0.9%	(△700人)	構成比	18.3%
福岡	57,200人	前年同月比	△2.7%	(△1,600人)	構成比	13.6%
名古屋	36,300人	前年同月比	±0.0%	(±0人)	構成比	8.6%

## 3. 概況と見通し

2月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空路線の増便（名古屋路線と福岡路線の各1便増）や器材の大型化（札幌路線）、チャーター便の運航などがあったものの、前年が閏年であり本年は1日少なかったこと、主要路線である東京路線において旅行商品価格が前年より高めに設定されていたことなどにより、前年を下回る結果となった。

外国客については、旧正月に合わせたチャーター便の運航により空路は大幅に増加したものの、昨年は運航があったクルーズ船の寄港が本年はなかったことにより、外国客全体としては前年と同数となった。

今後の見通しとしては、国内客については、卒業旅行シーズンを迎え予約状況が好調なことや、3月上旬の航空輸送実績が好調に推移していること、修学旅行の増加が見込まれること、免税ショッピングを組み込んだ商品販売の本格化が期待されること、中部国際空港の開港等による旅行市場の活性化などにより、好調に推移することが見込まれる。

外国客については、3月下旬よりクルーズ船の運航が再開されることや愛知万博開催期間中のノービザを活用した誘客が期待されること、IDB総会の開催などにより、前年を上回るものと見込まれる。

担当：観光企画課 久保田  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 2月は旅行商品価格が前年同月に比べ高く設定されたことから、旅行の手控えが見られ、各旅行社ともメディア商品、フリープラン商品の需要が弱かった。また、前年が閏年で今年は1日少なかったこともあり、前年を下回った。
- 3月は各エージェントとも昨年を上回る予約状況であり、好調に推移するものと予想される。

大阪事務所 (阪神地区)

- アジア方面を中心とする海外旅行へのシフトや前年が閏年で日曜日が5回あったことの影響により前年を下回った。
- 今後の見通しとしては、中学校の修学旅行シーズンを迎えることや4月に沖縄路線の器材が大型化 (ANA) されることにより、好調に推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 2月は、個人型・エスコート型とも好調に推移していたものの、大型団体旅行の減少により、前年を下回った。
- 3月は、沖縄本島への個人型、離島へのエスコート型とも好調に推移しており、前年を上回る勢いである。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 2月は、航空機の利用率が伸びており、沖縄への旅行意欲は旺盛であったと思われる。特にツアー型が好調とのことであった。
- 今後の見通しとしては、修学旅行を含め団体型が好調であるが、4月以降の個人旅行の予約がやや鈍い。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 2月の増加要因は、航空器材の大型化やJALの「琉球休暇キャンペーン」の展開による誘客効果と大手旅行社を中心とする販売の強化が挙げられる。また、キャンペーンが継続される3月までは、好調に推移する見込である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 春節休暇に合わせたチャーター便の運航やマスコミ招聘事業による個人客の掘り起こしなどにより、空路は大幅に増加したものの、昨年は2回運航があったクルーズ船の寄港がなかったため、全体としては前年を下回った。
- 今後は、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こし、愛知万博期間中のノービザ措置等により、増加が見込まれる。

韓国事務所 (韓国地区)

- 2月は、正月連休に合わせてチャーター便が運航されたことやパッケージ商品が好調に販売されたことにより、入域観光客の大幅な増加となった。

# 入域観光客統計概況

- 平成17年3月分 -

平成17年4月26日

沖縄県観光商工部

3月の入域観光客数は、506,700人。前年同月比は、+4.2% (+20,200人)で、同月としては、はじめて50万人を突破し過去最高を記録した。

1月～3月までの入域観光客数は、1,320,400人。前年同期比は+1.4% (+18,400人)となり、過去最高を記録した。

## 1. 国内外別入域状況

国内：499,800人 前年同月比 + 4.0% (+19,400人)

海外：6,900人 前年同月比 + 13.1% (+800人)

## 2. 主要航路別入域状況

東京：221,600人 前年同月比 + 4.9% (+10,300人) 構成比 43.7%

阪神：93,500人 前年同月比 + 0.4% (+400人) 構成比 18.5%

福岡：64,500人 前年同月比 + 2.4% (+1,500人) 構成比 12.7%

名古屋：48,700人 前年同月比 + 10.4% (+4,600人) 構成比 9.6%

札幌：12,200人 前年同月比 + 82.1% (+5,500人) 構成比 2.4%

## 3. 概況と見通し

3月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空機材の大型化（札幌路線）や下旬の3連休を中心に各エージェントが積極的に販促活動を実施したこと（東京路線）、ショッピング観光が新たな客層の開発に繋がりとつあることなどにより前年を上回る結果となった。

外国客については、クルーズ船の運航が再開されたことなどから昨年を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、4月上旬の航空輸送実績が好調に推移していること、団体旅行の予約が昨年を上回っていること、ショッピング観光を組み込んだ商品販売の本格化が期待されることから好調に推移することが見込まれる。

外国客については、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こしなどにより前年を上回るものと思われる。

担当：観光企画課 城間

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

3月は、後半の3連休を中心に各エージェントが積極的に販促活動を展開したことにより入域観光客が増加した。

4月は、大型コンベンションの開催や大型団体旅行が昨年に比べ伸びていることもあり、各エージェントの予約状況は昨年を上回っている。

大阪事務所(阪神地区)

3月は、国内旅行商品(パッケージツアー)が前年比120%台で伸びたことが入域観光客の増につながった。

4月以降は、個人消費の緩やかな回復も望まれることから順調に推移するものと思われる。

福岡事務所(九州・山口地区)

3月は、愛知博の影響により団体旅行が落ち込んだものの、個人型商品が好調に推移し前年を上回った。

4月の予約状況は、個人型商品は先月に引き続き好調さを持続しているが、愛知博への送客が本格化するため、前年増の確保は予断を許さない状況にある。

名古屋事務所(名古屋地区)

3月は、セントレア空港開港に伴い沖縄路線が増便されたことが入域観光客の増加につながった。周遊型商品、個人型商品とも順調に推移した。

4月以降については、万博やセントレア空港見学の反動効果もあり国内旅行はどの方面も苦戦している中、沖縄方面は例年並みになる見込み。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

3月は、JAL機材が大型化されたことや「北海道日本ハムファイターズ」の名護キャンプがテレビ、新聞等で頻繁に報道され沖縄に対する関心が高まったことが入域観光客の大幅な増につながったと思われる。

大手旅行代理店の4月～6月の沖縄への集客状況は人員ベースで前年同期比120%となっており順調に推移している。

2. 海外

台北事務所(台湾地区)

3月は、台北-沖縄-上海のトランジット客の増加による座席の占有などにより、昨年比で若干の減少となった。

4月以降は、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こしなどにより引き続き増加が見込まれる。

韓国事務所(韓国地区)

3月は、日韓修好40周年記念の民間交流でソウル市国楽管弦楽団が沖縄公演を実施したことなどにより前年度を上回った。

4月以降も企画商品の集客が順調に推移している。

# 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 4 月分 -

平成 17 年 5 月 23 日  
沖縄県観光商工部

4 月の入域観光客数は、446,600 人。前年同月比は、+6.7% (+28,100 人) で、同月の過去最高を記録した。

1 月～4 月までの入域観光客数は、1,767,000 人。前年同期比は +2.7% (+46,500 人) となった。

## 1. 国内外別入域状況

国内：434,200 人 前年同月比 +7.3% (+29,700 人)  
海外：12,400 人 前年同月比 11.4% (+1,600 人)

## 2. 主要航路別入域状況

東京：194,500 人 前年同月比 +9.4% (+16,700 人) 構成比 43.6%  
阪神：88,200 人 前年同月比 +9.8% (+7,900 人) 構成比 19.7%  
福岡：52,100 人 前年同月比 4.6% (+2,500 人) 構成比 11.7%  
名古屋：38,700 人 前年同月比 +16.6% (+5,500 人) 構成比 8.7%  
札幌：6,300 人 前年同月比 +5.0% (+300 人) 構成比 1.4%

## 3. 概況と見通し

4 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、米州開発銀行 (IDB) 年次総会の沖縄開催や修学旅行生の増加、ゴールデンウィークの日並みの良さなどの要因により前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の寄港回数が前年より少ないことなどから前年実績を下回った。

しかし、外国客の落ち込みを国内客がカバーし、入域観光客全体としては同月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、5 月上旬の航空旅客輸送実績が好調に推移していることや、修学旅行生の増加により、好調に推移すると予想される。

外国客については、クルーズ船の運行が昨年と同様のスケジュールで運行されることから、前年並みの実績を維持すると予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面は好調に推移すると予想される。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

大型コンベンション( I D B 年次総会 ) の沖縄開催や、大型団体旅行が伸びたことや、個人型商品が好調に推移したため入域観光客増につながった。

5 月前半は好調に推移しており、沖縄人気が続いていることから昨年実績を上回る見込みである。

**大阪事務所(阪神地区)**

メディアによる沖縄情報の発信の頻度が高く、沖縄人気の継続につながったことや、連休の日並びの良さが入域観光客の増加につながった。

今後は、トップシーズンに向け旅行需要が増すことが予想されることや、中学校の修学旅行シーズンに入ることから、順調に増加傾向で推移していくと思われる。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

昨年は、国体九州ブロック大会など大型スポーツコンベンションの開催が沖縄への入域観光客増につながったが、今年は沖縄での開催がなかったことから前年実績を下回った。

各旅行代理店によると、夏休み期間は愛知万博への送客が本格化し、家族旅行層が一時的に名古屋へシフトする可能性があるとのことである。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

春休み期間中の 4 月初旬、ゴールデンウィーク期間中の 4 月後半が特に順調だった。

5 月以降についても順調に推移すると予想される。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

消費者の旅行需要が全体的に活発化していることが、沖縄への入域客増加につながった。

## 2. 海外

**台北事務所(台湾地区)**

旅客は、話題性の高い愛知万博に集中しているため、本県を含む日本の他地域への送客は全体的に伸び悩む結果となっている。この傾向はしばらく続くものと思われる。

定期クルーズ船については、4 月は石垣港に 4 回、平良港に 3 回、計 7 回の寄港があった。今年は気温の上昇が遅かったことが販売に若干影響している。

**韓国事務所(韓国地区)**

5 月中旬から実施されている韓国、台湾共同のチャーター便では、韓国から約 170 名の送客を予定しているため、前年同期並みの実績を達成する見込みである。

# 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 5 月分 -

平成 17 年 6 月 21 日  
沖縄県観光商工部

5 月の入域観光客数は、414,400 人。前年同月比は、+4.9% (+19,400 人) で、5 月としては初めて 40 万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

1 月～5 月までの入域観光客数は、2,181,400 人。前年同期比は +3.1% (+65,900 人) となり、過去最高を記録した。

## 1. 国内外別入域状況

国内：398,400 人 前年同月比 + 4.9% (+18,700 人)  
海外：16,000 人 前年同月比 + 4.6% (+ 700 人)

## 2. 主要航路別入域状況

東京	164,600 人	前年同月比 + 5.9% (+ 9,200 人)	構成比 39.7%
阪神	93,000 人	前年同月比 + 6.4% (+ 5,600 人)	構成比 22.4%
福岡	48,300 人	前年同月比 5.7% (+ 2,900 人)	構成比 11.7%
名古屋	33,600 人	前年同月比 +17.1% (+ 4,900 人)	構成比 8.1%
札幌	5,800 人	前年同月比 + 3.6% (+ 200 人)	構成比 1.4%

## 3. 概況と見通し

5 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、ゴールデンウィークの日並びの良さや修学旅行生の増加、沖縄人気の継続などの要因により前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航が好調に推移したことなどから前年実績を上回った。

以上のことから、国内客、外国客ともに前年実績を上回り、5 月としては初めて 40 万人を突破し、単月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、沖縄人気が続いていることや、夏場の旅行商品の予約状況が好調なことなどから増加することが予想される。

外国客については、6 月末から 7 月末まで高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が予定されていることなどから、好調に推移すると予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面、好調に推移すると思われる。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098 - 866 - 2763  
FAX 098 - 866 - 2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

ゴールデンウィークの日並びの良さや、沖縄人気が続いていることなどから個人型商品が好調に推移し、前年実績を上回った。

夏場に向けた沖縄キャンペーンを各旅行代理店が早目に立ち上げたため、夏休み商品の動きがよく、7月から8月は好調に推移するものと思われる。

**大阪事務所(阪神地区)**

沖縄音楽や食材、癒し等による沖縄人気が続いており、国内の旅行先としてメジャーとなったことや、大型連休の日並びの良さ、修学旅行生の増加などの要因により入域増となった。

夏の家族向け旅行商品の発売開始にあたり販促キャンペーンが展開されることや、夏の旅行商品の申込状況が各社5%~15%の伸びを示していることから今後も好調に推移するものと思われる。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

5月は、個人旅行商品やパッケージ商品は好調に推移したが、一般団体客が落ち込んだため、前年実績を下回ることとなった。旅行代理店へヒアリングした結果、福岡西方沖地震が消費者の旅行マインドに少なからず影響を与えていると指摘する意見が多い。

7月から8月の期間中は、愛知万博への送客が本格化し、家族旅行層や団体客が一時的に名古屋へシフトする可能性があることが予想されるが、7月、9月は前年実績を上回る見込みである。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

ゴールデンウィーク明けは梅雨のため例年旅行者は落ち込むが、梅雨でも沖縄を楽しむことのできるリピーター客が、安い旅行商品を中心に増加しているため好調に推移した。

8月に名古屋-那覇路線が2便増便されることや、旅行需要が高まっていることなどから、今後も順調に推移すると思われる。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

5月の国内旅行の傾向として、全体的に前年並みで推移しているなか、沖縄は微増であった。

6月は、各航空会社の団体予約状況からすると、集客は伸び悩んでいる。

## 2. 海外

**台北事務所(台湾地区)**

定期クルーズ船寄港地についてのマスコミ招聘記事が入域者増につながった。しかし、空路による来沖者数は、愛知万博ツアーへの送客が本格化していることや、団体ツアーチケット価格が他地域と比較して高いことなどにより2割近く減少している。

台北市内の旅行社によると、6月は小規模のインセンティブツアーが好調とのことである。

**韓国事務所(韓国地区)**

定期便を利用した沖縄への旅行商品については、他府県と比べて価格面で競争力が弱いため苦戦したが、フェリーフライトを利用した格安商品や、クラブメッド石垣国際チャーター便により350名余りを送客した。

夏場の集客競争が始まり、日本国内外の他地域との競合が予想されるが、沖縄への送客については、中小規模のインセンティブツアーが予定されているため、昨年並みの実績を維持する見込みである。

# 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 6 月分 -

平成 17 年 7 月 22 日  
沖縄県観光商工部

6 月の入域観光客数は、416,700 人。前年同月比は、+9.3% (+35,500 人) で、6 月として初めて 40 万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

1 月～6 月までの入域観光客数は、2,598,100 人。前年同期比は +4.1% (+101,400 人) となった。

## 1. 国内外別入域状況

国内：398,300 人 前年同月比 +9.5% (+34,700 人)  
海外：18,400 人 前年同月比 +4.5% (+800 人)

## 2. 主要航路別入域状況

東京：180,500 人 前年同月比 +7.8% (+13,100 人) 構成比 43.3%  
阪神：81,100 人 前年同月比 +8.4% (+6,300 人) 構成比 19.5%  
福岡：52,300 人 前年同月比 +11.5% (+5,400 人) 構成比 12.6%  
名古屋：36,800 人 前年同月比 +21.1% (+6,400 人) 構成比 8.8%

## 3. 概況と見通し

6 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、伊丹、名古屋路線の提供座席数の増加や航空各社が割引運賃の設定期間を昨年より延長したこと、沖縄人気が続いていることなどの理由により前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航が好調なことなどから前年実績を上回った。

以上のことから、入域観光客全体としては 6 月として初めて 40 万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、7 月上旬までの航空旅客輸送実績が好調なことや、夏休み期間の沖縄方面の予約状況が好調であることなどから前年実績を上回ると予想される。

外国客については、6 月末から昨年同様高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便が運航されており、8 月下旬からは韓国路線が週 1 便増便となるが、上海路線減便の影響などから前年並みで推移すると予想される。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

## (財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

キャリアやエージェントによる積極的な販促活動の展開により個人型旅行商品及び企業のインセンティブツアー等の団体客が好調に推移し、入域客増となった。

国内旅行の目的地として、沖縄人気が続いており、7月、8月とも前年実績を上回る見通しである。

**大阪事務所(阪神地区)**

リゾート地として根強い人気が続いたことや、若者向けのパッケージツアーが好調に推移したため入域増となった。

愛知万博への送客が増えているなか、沖縄への送客については、ファミリープランをはじめ前年比2割から3割増となっており、8月期の増便もあることから今後も順調に伸びる見通しである。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

個人旅行やパッケージ商品が好調に推移したことにより昨年実績を上回った。

大手旅行社によると、台風の影響がなければ7月から9月も好調に推移し、昨年実績を上回るだろうと予想している。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

各航空会社とも提供座席数を増やしたことや、梅雨明けから夏休みまでの間の割安商品を購入するリピーター客が増えたことなどにより大幅な入域客増となった。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

6月から8月は直行便が運休しているため定量的なデータはないが、沖縄への送客については、マスメディアへの露出効果などの要因により経由便が好調に推移したと推測される。

7月から9月については、北海道内外への旅行商品の売れ行きが良くないことなどから、9月の直行便再開に向け競争激化が予想される。

## 2. 海外

**台北事務所**

小規模なインセンティブツアーや、定期クルーズ船の集客が好調に推移したことなどにより昨年実績を上回った。

6月30日から定期便のない高雄-那覇間のプログラムチャーター便の運航が始まり、7月末までに計9便の送客が予定されている。

**韓国事務所**

6月は、オフシーズンのため格安で販売されている東南アジアや中国地域の旅行商品が人気を集めており、沖縄への送客は前年同月と比較して微増にとどまった(ソウル市内主要旅行社30社の実績による)。

沖縄観光のトップシーズンを迎え、航空運賃や滞在費の値上げにより苦戦することが予想されるが、中小規模のインセンティブツアーが予定されていることなどにより昨年並みの実績を維持すると見込まれる。

**上海事務所**

観光地としての知名度が低いことや、東南アジア地域との価格競争にさらされ、沖縄への入域者数は低いレベルにとどまっている。

中長期的には訪日旅行者数が増大していくことが予想され、国際観光リゾート地としての沖縄の知名度向上を着実に図るため、地元メディアによる情報発信を最優先に取り組む。

## 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 7 月分 -

平成 17 年 8 月 24 日  
沖縄県観光商工部

7 月の入域観光客数は、474,400 人。前年同月比は、+6.5% (+29,000 人) で、同月の過去最高を記録した。  
1 月～7 月までの入域観光客数は、3,072,500 人。前年同期比は +4.4% (+130,400 人) で同期間の過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入域状況

国内：457,700 人 前年同月比 +6.5% (+27,900 人)  
海外：16,700 人 前年同月比 +7.1% (+1,100 人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京：222,200 人	前年同月比 +6.3% (+13,200 人)	構成比 46.8%
大阪：91,200 人	前年同月比 +8.2% (+6,900 人)	構成比 19.2%
福岡：55,000 人	前年同月比 +0.2% (+100 人)	構成比 11.6%
名古屋：40,400 人	前年同月比 +20.2% (+6,800 人)	構成比 8.5%

### 3. 概況と見通し

7 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、大手航空会社の割引運賃の設定期間の延長や、増便や使用機材の大型化による空路の提供座席数の増加、羽田 - 那覇間の深夜定期便の運航、沖縄人気の継続などの理由により昨年実績を上回った。

外国客については、高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航や定期クルーズ船の運航が好調に推移したことなどにより昨年実績を上回った。

以上のことから、入域観光客全体としては昨年実績を上回り、同月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、夏休み期間の旅客輸送実績が好調であったことや沖縄人気が続いていることなどから、昨年実績を上回ると予想される。

外国客については、空路においては、韓国路線が 1 便増便となるが、昨年は 10 月下旬まで運航していた高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便が今年は 7 月末で運航を終了したことなどにより、伸び悩みが予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面好調に推移すると予想される。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098 - 866 - 2763  
FAX 098 - 866 - 2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

キャリアやエージェントが、夏の沖縄旅行商品の販促活動を例年より早めに展開したこと、7月からスカイマークエアラインズによる深夜定期便が運航したことなどにより市場全体が好調に推移した。

8月は、料金設定の高い中旬の動きが弱い後半の動きがよく、全体的には昨年を上回る見通しである。

**大阪事務所(大阪地区)**

幅広い層に沖縄人気が続いていること、個人旅行者向けの旅行商品が充実したことなどにより入域増となった。

沖縄観光のトップシーズンに入り、大手旅行代理店の予約状況は昨年と比較して110%~120%の伸びを示しており、台風等のマイナス要因が発生しない限り順調に推移すると思われる。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

個人旅行者や地域団体等小規模の団体旅行が増えたことなどにより前年実績を上回った。昨年に比べ微増にとどまった理由としては、愛知万博との競合や大型コンベンション開催件数の減少、夏休み時期の分散化傾向などが挙げられる。

8月は個人旅行や家族旅行の伸びにより、前年実績を上回る見込みである。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

夏期臨時便の運航や機材の大型化により提供座席数が増加し、それに対応した旅行商品の販売が好調だったことなどにより入域増となった。

旅行代理店によると、商品造成の際の航空運賃価格が7月後半と8月後半で同一となったため、従来8月に旅行していた客層が7月にシフトしており、8月の集客については伸び悩むことが予想される。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

6月から8月は直行便が運休しているため定量的なデータはないが、他の目的地に比べて沖縄は旅行者の動向が活発なことや、各旅行代理店が沖縄の旅行商品の広告宣伝を強化していることなどにより経由便の実績が昨年を上回ったと推測される。

9月から再開される直行便の使用機材が大型化され、1便あたり100席増席となることから、各旅行社とも9月以降に沖縄キャンペーンを展開することである。

## 2. 海外

**台北事務所**

台風5号の台湾上陸により空路2便と定期クルーズ船1便の運休があったが、高雄・那覇直行チャーター便の運航と個人旅行者の増加により入域増となった。

8月は台風9号の影響により定期クルーズ船が1便運休となっており、上記のチャーター便についても今年は7月末で運航を終了(昨年は10月下旬まで運航)したことなどにより、今後は送客数が減少する見込みである。

**韓国事務所**

定期便を利用したパッケージ商品の販売状況は良くなかったが、夏休み期間に入り、家族旅行者が増えたことや、フェリーフライトを利用した格安商品を造成することができたことなどの理由により前年実績を上回った。

**上海事務所**

夏休み期間中の現在、大手旅行社5社で取り扱っている海外旅行先は香港・マカオ・東南アジア、ヨーロッパが多くなっており、訪日旅行先としては東京・大阪のほか、愛知万博の開催されている名古屋や、北海道の人气が高い。

沖縄の知名度向上を図るため、地元メディアによる情報発信に取り組むとともに、8月は沖縄と上海の子ども将棋交流の一行40名余りの送客を支援した。

## 入域観光客数（7月）の修正について

○7月の入域観光客数を下記のとおり修正しました。

○観光客数		(人、%)	
		修正前	修正後
月間	H17年7月	474,400	478,700
	H16年7月	445,400	445,400
	増減数	29,000	33,300
	前年比	106.5%	107.5%
累計	H17年累計	3,072,500	3,076,800
	H16年累計	2,942,100	2,942,100
	増減数	130,400	134,700
	前年比	104.4%	104.6%

○東京航路		(人、%)	
		修正前	修正後
月間	H17年7月	222,200	226,500
	H16年7月	209,000	209,000
	増減数	13,200	17,500
	前年比	106.3%	108.4%
	構成比	46.8%	47.3%
累計	H17年累計	1,340,100	1,344,400
	H16年累計	1,275,900	1,275,900
	増減数	64,200	68,500
	前年比	105.0%	105.4%
	構成比	43.6%	43.7%

○修正理由：7月1日から運航しているスカイマークエアラインズの深夜定期便の実績が、入域観光客数を算出する際の数式に足し込まれていなかったことによる。

## 入域観光客統計概況 - 平成 17 年 8 月分 -

平成 17 年 9 月 21 日  
沖縄県観光商工部

8 月の入域観光客数は、563,600 人。前年同月比は、+7.7% (+40,200 人) で、同月の過去最高を記録した。  
1 月～8 月までの入域観光客数は、3,640,400 人。前年同期比は +5.0% (+174,900 人) で同期間の過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入域状況

国内：548,900 人 前年同月比 +7.2% (+36,700 人)  
海外：14,700 人 前年同月比 +31.3% (+3,500 人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京	255,200 人	前年同月比	+6.5% (+15,600 人)	構成比	45.3%
大阪	116,900 人	前年同月比	+9.7% (+10,300 人)	構成比	20.7%
福岡	66,700 人	前年同月比	+4.7% (+3,000 人)	構成比	11.8%
名古屋	51,400 人	前年同月比	+17.9% (+7,800 人)	構成比	9.1%

### 3. 概況と見通し

8 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、沖縄観光のトップシーズンを迎え、キャリアやエージェントの積極的な販促活動が展開されたことや、航空路線の増便（関西路線、伊丹路線、名古屋路線）、夏休み期間の輸送実績が好調に推移したことなどにより前年実績を上回った。

外国客については、韓国路線の増便や定期クルーズ船の運航が好調に推移したことや、台風の影響が前年より少なかったこともあり、前年実績を上回ることとなった。

今後の見通しとしては、9 月上旬の台風の影響が懸念されるものの、航空路線の増便（上海路線、羽田路線）や使用機材の大型化（札幌路線）、秋の修学旅行シーズンに入ることなどにより増加することが見込まれる。

担 当：観光企画課 上原奈津子  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

キャリアやエージェントの積極的な販促活動や、昨年に比べ台風の影響が少なかったことなどにより入域客増となった。

修学旅行シーズンを迎えることや、国内旅行の目的地として沖縄人気が続いていることなどから今後も好調に推移するものと思われる。

**大阪事務所(大阪地区)**

沖縄観光のトップシーズンを迎え、企画商品が好調に売れ行きを伸ばしたことや、マスメディアへの露出が高くなったことなどが入域客の増加につながった。

秋の旅行シーズンに入り、大手旅行社の申込み状況が対前年比で 20% 以上伸びていることから、好調に推移するものと思われる。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

8 月の前半は台風の影響でキャンセルが発生したが、後半は個人型旅行や家族旅行、団体旅行が増加し、入域客増となった。

9 月上旬は台風の影響を受けたものの、10 月、11 月は団体旅行や修学旅行が好調に推移すると思われる。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

昨年に比べ台風の影響がほとんどなかったことや、航空機材の大型化により旅客数が大幅に増加した。

10 月以降は、愛知万博が終了することや、安価な商品が提供できることなどにより好調に推移すると思われる。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

経由便の実績は、航空会社 2 社合計で前年同月比 2 桁以上の伸びとなり、2 月から連続して前年を上回っている。

9 月以降は、直行便が再開され機材も大型化されることから、各旅行代理店とも沖縄キャンペーンを積極的に展開している。一般旅行客の動向も好調であることや、10 月～11 月は修学旅行シーズンであることを考えると今後も好調に推移するものと思われる。

## 2. 海外

**台北事務所**

定期クルーズ船の寄港回数が昨年よりも多かったため、入域客全体としては増加しているが、昨年は 10 月まで運航していた高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が 7 月末で終了したため、空路による入域客は約 10% の減少となっている。

台風の影響や、高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が終了していることなどにより、今後は台湾からの入域客数は減少する見込みである。

**韓国事務所**

8 月 23 日から韓国路線が 1 便増となり、それを記念した旅行商品の販売が実施されたことなどにより、前年実績を上回ることとなった。

増便を記念した旅行商品の集客状況は 9 月も好調であるが、10 月以降は他地域と比較すると価格面で競争力が弱く、苦戦する見込みである。

**上海事務所**

上海においては、沖縄はまだ観光地としての知名度が低く、上海を含めた中国人の入域者数は非常に低いレベルにとどまっている。

上海路線が週 2 便から週 5 便へ増便となるため、沖縄や上海の航空会社や旅行社などと連携し、新たな旅行商品の開発や宣伝活動を強化することにより、週 7 便運航のあった前年以上の実績を達成できると思われる。

## 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 9 月分 -

平成 17 年 10 月 20 日  
沖縄県観光商工部

9 月の入域観光客数は、491,400 人。前年同月比は +7.3%、(+33,600 人) で、同月としては過去 2 番目の記録となった。  
1 月～9 月までの入域観光客数は、4,131,800 人。前年同期比は +5.3% (+208,500 人) で、同期間の過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入域状況

国内： 478,300 人 前年同月比 + 6.8% (+ 30,300 人)  
海外： 13,100 人 前年同月比 + 33.7% (+ 3,300 人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京： 229,600 人	前年同月比	+ 5.6% (+ 12,100 人)	構成比 46.7%
大阪： 97,100 人	前年同月比	+ 11.2% (+ 9,800 人)	構成比 19.8%
福岡： 57,600 人	前年同月比	+ 1.2% (+ 700 人)	構成比 11.7%
名古屋： 39,100 人	前年同月比	+ 11.1% (+ 3,900 人)	構成比 8.0%
札幌： 9,000 人	前年同月比	+ 63.6% (+ 3,500 人)	構成比 1.8%

### 3. 概況と見通し

9 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空路線の増便（関西路線）や航空機の使用機材の大型化（札幌路線、名古屋路線）により提供座席数が増えたこと、前年に比べ台風の影響が少なかったこと、下旬の三連休の日並びが良かったこと、沖縄人気が続いていることなどにより前年実績を上回った。

外国客については、台風の影響が前年より少なく、定期クルーズ船の寄港回数が前年を上回ったことなどにより大幅な増加となった（今月の寄港回数は 7 回、前年同月は 4 回）。

今後の見通しとしては、国内客については、10 月上旬の航空旅客輸送実績が好調に推移していることや、航空路線の増便（羽田路線、名古屋路線）、修学旅行生の増加などにより増加すると見込まれる。

外国客については、10 月末から上海路線が週 5 便に増便となることにより、空路による入域観光客数の増加が見込まれるが、海路による入域観光客数については、定期クルーズ船の運航終了により減少すると予想される。

入域観光客数全体としては、好調に推移すると予想される。

担 当：観光企画課 上原奈津子  
TEL 098 - 866 - 2763  
FAX 098 - 866 - 2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

## 1. 国内

**東京事務所 (関東地区)**

航空運賃の料金が安くなる中旬以降、個人自由旅行商品が集中的に伸びたことや、昨年と比べ天候や連休の日並びが良かったことなどにより前年実績を上回った。

10月は、団体客は前年並みの予約状況であるが、キャリア系エージェントの個人自由旅行商品の動きが良く、全体としては昨年を上回る見込みである。

**大阪事務所 (大阪地区)**

9月に入り、航空運賃が安くなったことにより低価格ツアー商品が伸びたことや、航空機の提供座席数が増加したこと、台風による影響が最小限にとどまったことなどにより前年実績を上回った。

修学旅行生は前年並みと予想されるが、個人自由旅行商品が好調に推移する見込みであることや、大手旅行社の申込み状況が二桁台で伸びているため、今後とも順調に推移すると思われる。

**福岡事務所 (九州・山口地区)**

平成15年度と比較すると入域観光客数は減少しているが、その要因としては福岡を直撃した台風14号によるキャンセルが多数発生したことや、週末に台風が集中したためであると推測される。

9月～11月は秋の旅行シーズンを迎え、沖縄への旅行需要も高く、団体旅行、個人旅行ともに好調に推移し、昨年並みの実績を達成する見込みである。

**名古屋事務所 (名古屋地区)**

大型機材の投入により提供座席数が増えたことや、昨年と比べ台風の影響が少なかったことなどにより前年実績を上回った。

10月以降は、航空路線が1便増便となることや、トヨタを中心とした好景気、愛・地球博 (正式名称: 2005年日本国際博覧会) 終了の影響などにより増加すると見込まれる。

**北海道観光・物産情報センター (北海道地区)**

直行便が再開され、使用機材が大型化されたことや、旅行代理店各社が積極的な販促活動を行ったことにより直行便、経由便含めて2桁台の伸びとなった。

10月も好調に推移しているが、11月以降については、やや出足が鈍い様子である。

## 2. 海外

**台北事務所**

空路については、臨時便の運航や上海への乗り継ぎ客が減少したこと、海路については、昨年より定期クルーズ船の寄港回数が多いことにより前年実績を上回った。

10月は、中旬に台湾の保険会社のインセンティブツアー (約600名) が実施されたことや、チャーター便 (1便) が運航されたことなどにより空路による観光客は昨年より増加すると見込まれる。

**韓国事務所**

今年は韓国の旧盆の連休が3日間と短く、航空便のスケジュールが合わなかったことや、他目的地と比較して価格面で競争力が弱かったことなどにより前年実績を下回った。

他目的地がオフシーズンのため、低価格の旅行商品が販売されており、沖縄への集客については苦戦する見込みである。

**上海事務所**

9月は、夏休み明けで目立った団体客の送客がなく、前月比で落ち込んでいる。

上海直行便が10月30日から週5便へ増便されるが、上海の旅行社に十分な周知が図られていない。上海における沖縄の露出はメディア招聘などにより増えつつあり、今後航空会社や旅行社と連携し、官民一体となった旅行商品の開発や宣伝の強化により、前年以上の実績を達成できると見込まれる。

## 入城観光客統計概況 —平成17年10月分—

平成17年11月25日  
沖縄県観光商工部

10月の入城観光客数は、479,900人。前年同月比は +11.8% (+50,700人) で、10月として初めて45万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

1月～10月までの入城観光客数は、4,611,700人。前年同期比は +6.0% (+259,200人) で、同期間の過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入城状況

国内： 465,800人 前年同月比 + 11.2% (+46,800人)  
海外： 14,100人 前年同月比 + 38.2% (+ 3,900人)

### 2. 主要航路別入城状況

東京： 223,300人	前年同月比	+10.1% (+20,500人)	構成比46.5%
大阪： 81,800人	前年同月比	+13.1% (+ 9,500人)	構成比17.0%
福岡： 57,500人	前年同月比	+10.8% (+ 5,600人)	構成比12.0%
名古屋： 38,700人	前年同月比	+14.2% (+ 4,800人)	構成比 8.1%
札幌： 9,200人	前年同月比	+46.0% (+ 2,900人)	構成比 1.9%

### 3. 概況と見通し

10月の入城観光客数の概況としては、国内客については、台風などの自然災害の影響が昨年より少なかったこと、航空路線の増便や機材の大型化により提供座席数が増加したこと、修学旅行が増加したこと、沖縄人気が続いていることなどの要因により前年実績を上回った。

外国客については、台湾企業のインセンティブツアーによる送客（約600名）や、定期クルーズ船の運航が好調に推移したこと、下旬に豪華客船が那覇港に寄港したことなどの要因により前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、11月中旬までの航空旅客輸送実績が好調に推移していることや、航空路線が増便されることなどにより増加すると見込まれる。

外国客については、上海路線の増便などにより前年並みの実績を維持すると見込まれる。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 修学旅行や団体旅行が堅調に推移したこと、個人旅行商品が例年以上に好調に推移したことなどにより前年実績を上回った。
- 11月も、修学旅行の増加や、個人旅行商品の予約状況が好調であることから、前年実績を上回る見込みである。

大阪事務所(大阪地区)

- 航空機の提供座席数の増加により輸送能力が拡大したこと、旅行代理店によるキャンペーンや、メディアを通しての沖縄情報の発信が頻繁に行われたことにより前年実績を上回った。
- 大手旅行代理店の予約状況が二桁台で伸びていることから、今後も好調に推移すると見込まれる。

福岡事務所(九州・山口地区)

- 昨年と比較して台風の影響が少なかったこと、上旬に三連休があったこと、九州・沖縄地区の景気が回復基調にあり、個人旅行商品に加え団体旅行などが堅調に推移したことなどの影響により前年実績を上回った。
- 秋の旅行シーズンに入り、沖縄への旅行需要が高いことなどから、昨年実績を維持すると見込まれる。

名古屋事務所(名古屋地区)

- 10月から名古屋-那覇間が1便増便となったこと、航空運賃や宿泊料金が9月より下がったこと、沖縄では10月でもまだ夏の楽しみができることなどがリピーターの間で浸透したことなどにより、前年実績を上回った。
- 11月以降の予約状況も好調である。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

- 直行便の機材の大型化により提供座席数が増加したこと、旅行代理店による積極的な販促活動が展開されたことなどにより前年実績を上回った。
- 11月も好調に推移しており、12月以降も航空会社と旅行代理店が連携して沖縄キャンペーンを行う予定である。

2. 海外

台北事務所

- 空路、海路ともに台風の影響を受け、欠航やスケジュール変更などがあつたものの、大型インセンティブツアーが実施されたことにより前年実績を上回った。
- 12月3日に統一地方選挙があるため消費者が旅行を控える傾向にあり、旅行市場にも影響が出始めている。

韓国事務所

- 10月は、他目的地との価格競争が激しく、送客に苦戦した。
- 11月以降は、ゴルフ目的の消費者からの問い合わせが増えてきていることや、インセンティブツアーが実施されることなどから好調に推移する見通しである。

上海事務所

- 上海便が週5便に増便されたことは旅行社に周知が図られているが、オフシーズンのため旅行社の動きが鈍い。
- 増便に対応するため、インバウンドの旅行社や、(財)沖縄観光コンベンションビューローと連携し、冬場や旧正月向けの旅行商品を開発中であり、その販売・宣伝を強化していく。

## 入城観光客統計概況

—平成17年11月分—

平成17年12月27日  
沖縄県観光商工部

11月の入城観光客数は、447,200人。前年同月比は +9.1% (+37,300人) で、同月の過去最高を記録した。  
1月～11月までの入城観光客数は、5,058,900人。前年同期比は +6.2% (+296,500人) で、同期間の過去最高を記録した。

## 1. 国内外別入城状況

国内： 441,400人 前年同月比 +9.1% (+36,800人)  
海外： 5,800人 前年同月比 +9.4% (+500人)

## 2. 主要航路別入城状況

東京	202,300人	前年同月比	+9.9%	(+18,300人)	構成比	45.2%
大阪	74,800人	前年同月比	+9.8%	(+6,700人)	構成比	16.7%
福岡	59,900人	前年同月比	+1.5%	(+1,500人)	構成比	13.4%
名古屋	38,300人	前年同月比	+18.2%	(+5,900人)	構成比	8.6%
札幌	8,700人	前年同月比	+50.0%	(+2,900人)	構成比	1.9%

## 3. 概況と見通し

11月の入城観光客数の概況としては、国内客については、昨年の中越地震のような、自然災害による旅行マインドの落ち込みがなかったこと、航空路線の増便や機材の大型化により提供座席数が増加したこと、修学旅行生が増加したことなどの要因により前年実績を上回った。

外国客については、空路において前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、12月中旬までの航空旅客輸送実績が好調に推移していること、航空路線の増便や新規路線の開設により提供座席数が増加すること、年末年始期間の予約状況が好調であることなどから、前年実績を上回ると見込まれる。

外国客については、前年並みの実績を維持すると見込まれる。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

## 1. 国内

## 東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行や団体旅行に加え、個人型旅行商品が好調に推移したことなどにより、前年実績を上回った。
- 12月 は、修学旅行や団体旅行は前年を上回る勢いで推移しており、個人型旅行商品の予約状況も好調である。

## 大阪事務所 (大阪地区)

- 企画旅行商品が好調に売上を伸ばしたこと、航空会社の増便や機材の大型化により提供座席数が増加したことなどにより前年実績を上回った。
- 12月 は、大手旅行代理店の申込み状況が2桁台の伸びを示しており、好調に推移する見通しである。

## 福岡事務所 (九州・山口地区)

- 九州・沖縄の景気が緩やかながら回復に向かっていることにより旅行需要が高まっていること、スポーツなどの九州地区大会の沖縄開催が昨年より増えたことなどにより、前年実績を上回った。
- 大手旅行代理店によると、12月から1月の沖縄への送客は好調に推移しているとのことである。

## 名古屋事務所 (名古屋地区)

- 11月前半は、オフシーズン価格でありながら海水浴なども可能であることが、リピーターを中心に認知されてきた結果、大幅な増加となった。
- 12月 は、昨年のセントレア空港開港による特需があったことによる反動や、年末年始の日並びの悪さから、やや厳しいのではないかという意見がある。

## 北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 機材の大型化により座席の供給量が増加したことや、沖縄人気が続いていること、海外と比較して安全性や航空路線の利便性が高いことなどにより前年実績を上回った。
- 12月 は好調に推移しているが、1月の予約状況は、現時点では鈍い。

## 2. 海外

## 台北事務所

- 航空機の座席の確保が容易になったことなどにより台湾籍の入域者数が大幅に増加した。
- 来年1月の春節(旧正)の休暇時(1月28日～2月2日)には、例年より多い10本のチャーター便の運航が予定されている。

## 韓国事務所

- 増便を記念した旅行商品の販売が好調に推移したことなどにより、前年実績を上回った。
- 12月 は、上旬に韓国企業のインセンティブツアーが実施されたこと、ゴルフを組み合わせた旅行商品や、フェリーフライトを利用した旅行商品の販売が好調に推移していることなどから、前年実績を達成する見込みである。

## 上海事務所

- 10月末には、上海直行便が週2便から週5便に増便されたが、増便が必ずしも集客には結びついていない状況である。
- 12月下旬には、航空会社や旅行社を沖縄に招聘し、旅行商談会を開催するなど、上海市場での沖縄の知名度向上を図るため、様々な誘客プロモーションや地元メディアを中心とした情報発信に積極的に取り組む。

## 入域観光客統計概況 －平成17年12月分－

平成18年 1月20日  
沖縄県観光商工部

12月の入域観光客数は、441,200人。前年同月比は +12.9% (+50,400人) で、同月の過去最高を記録した。

1月～12月までの入域観光客数は、550万1000人。前年同期比は +6.7% (+346,900人) で、目標の540万人を達成し、過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入域状況

国内： 435,000人 前年同月比 +12.7% (+49,000人)  
海外： 6,200人 前年同月比 +29.2% (+1,400人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京	203,100人	前年同月比	+14.5%	(+25,700人)	構成比46.0%
大阪	77,800人	前年同月比	+13.2%	(+9,100人)	構成比17.6%
福岡	56,800人	前年同月比	+13.4%	(+6,700人)	構成比12.9%
名古屋	39,100人	前年同月比	+16.4%	(+5,500人)	構成比8.9%
札幌	6,300人	前年同月比	+23.5%	(+1,200人)	構成比1.4%

### 3. 概況と見通し

12月の入域観光客数の概況としては、国内客については、温暖な沖縄への旅行需要が高まったこと、新規航空路線の就航や、増便や機材の大型化により提供座席数が増加したこと、下旬の三連休や年末年始の輸送実績が好調に推移したことなどにより前年実績を上回った。

外国客については、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、1月上旬の航空旅客輸送実績が好調に推移していること、2月以降、新空港の開港に伴い新規路線が開設されるなど、輸送能力が拡大することなどから、引き続き好調に推移すると見込まれる。外国客については、当面好調に推移すると見込まれる。

担当：観光企画課 上原  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 景気回復により一般団体旅行が増加したこと、修学旅行が好調に推移したこと、下旬の三連休を中心に個人旅行商品の需要が高かったことなどにより入域観光客の大幅な増加につながった。
- 1月は個人旅行商品の予約状況が好調である。

大阪事務所 (大阪地区)

- 年末年始の旅行シーズンに入り、気候の温暖な沖縄への旅行需要が高まったことや、座席提供数が増加したこと、旅行社の企画商品、個人旅行商品が好調に推移したことなどにより前年実績を上回った。
- 神戸空港開港(2月16日～)により新たな旅行需要の喚起が期待されること、大手旅行社の申込み状況も順調であることから、好調に推移すると見込まれる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 沖縄人気が継続していることや、景気回復など明るい材料に支えられ、個人旅行商品、一般団体旅行などが順調に伸びたことにより前年実績を上回った。
- 大手航空会社や旅行代理店によると、1月から3月までは前年並みの実績を維持するとのことである。
- JAL鹿児島路線再開(2月16日～)や、新北九州空港開港(3月16日～)により輸送力の強化が図られる。

名古屋事務所 (名古屋地区)

- 12月に入り、記録的な寒波の影響で、暖かい沖縄への旅行需要が高まったことなどにより昨年実績を上回った。
- 昨年セントレア空港開港に伴う特需の反動により厳しい状況になると予想される。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 他方面の旅行商品が伸び悩むなか、沖縄が引き続き好調を維持している。
- 冬場の旅行商品は、気候の温暖な伊豆・南紀・九州・沖縄の各方面が主流となるが、年始めや年度末の時期でもあり、各社販売強化を図られると思われる。

2. 海外

台北事務所

- 12月については、愛知万博終了後のプロモーションによる旅客の増加と、NAHAマラソン参加者、応援団、視察団の来沖により前年実績を上回った。
- 1月は春節(旧正)の休暇があることや、石垣国際チャーター便ツアーが計画されていることから前年実績を大幅に上回ると見込まれる。

韓国事務所

- 韓国企業のインセンティブツアーが実施されたこと、フェリーフライト商品の販売が好調だったこと、ゴルフ客が増加していることなどにより前年実績を上回った。
- 1月は、小規模の団体旅行が数件予定されていることから、前年実績を上回る見込みである。

上海事務所

- 10月末に直行便が週5便に増便されたが、搭乗率は伸び悩んでいる状況である。
- 新たな沖縄旅行商品を開発し、販売する計画を進める目的で、12月末に中国の航空会社や旅行社を沖縄に招聘した。